

## 診療報酬記録に基づいた肝炎ウイルス由来の肝疾患関連患者の重複疾患数の推計

研究代表者：田中 純子

研究協力者：大久 真幸、秋田 智之、杉山 文、松尾順子

広島大学 大学院医系科学研究科 疫学・疾病制御学

### 研究要旨

我が国における肝炎ウイルス由来の肝疾患関連患者の重複疾患の分布・頻度を病因別に明らかにすることを目的とした。

健康保険組合に属する3,462,296人が有する2014-2016年における診療報酬記録77,773,235件を解析対象として肝疾患関連疾患病名を持つ患者の全レセプトを抽出した。肝疾患関連150の標準病名を76のパターン分類用病名に変換した。抽出したレセプトデータから同一患者のデータを診療年月順に並べ、2回以上出現したパターン分類用病名のみで出現パターンから肝疾患病因/病態を分類した。

健保組合に属する本人及び家族3,462,296人を分母とした2014-2016年の3年期間有病率は10万人対でB型肝炎関連疾患では200.8、C型肝炎関連疾患では170.6であった。これまでの研究（Hep Res 2015;45:1228-1240.）では健保組合に属する本人及び家族787,075人を分母とした2010年の1年期間有病率は10万人対でB型肝炎関連疾患では174.9、C型肝炎関連疾患では186.9であった。

- ・ 0-64歳のB型肝炎関連疾患5,492人のうち、重複疾患を有していたのは4,566人（83.1%）であった。重複疾患の頻度が多い3疾患は胃炎及び十二指腸炎[K29],24.3%、リポたんぱく代謝障害及びその他の脂(質)血症[E78],21.3%、血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎 [J30],21.1%であった。
- ・ 0-64歳のC型肝炎関連疾患4,668人のうち、重複疾患を有していたのは3,880人（83.1%）であった。重複疾患の頻度が多い3疾患は胃炎及び十二指腸炎[K29],30.5%、血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎 [J30],28.1%、本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)[I10],27.8%であった。
- ・ また、重複疾患から対応する診療科を推定し、医療機関を受診しているB型肝炎関連疾患患者が、どの診療科に該当する重複疾患を持つか集計した結果、0-64歳では内科（慢性疾患）が69%と最も高く、ついで耳鼻科が42%であった。
- ・ C型肝炎関連疾患患者でも0-64歳では内科（慢性疾患）が74%と最も高く、ついで耳鼻科が48%であった。
- ・ 診療報酬記録を解析することによって医療機関を受診している0-64歳のB型肝炎・C型肝炎関連疾患患者がいずれかの重複疾患を有する割合はそれぞれ83.1%であること、また、その重複疾患として多いのは胃炎・十二指腸炎・脂質異常・鼻炎・高血圧等であり、内科（慢性疾患）・耳鼻科・内科（急性疾患）に該当する疾患を多く持っていることを明らかにした。

## A. 研究目的

当研究室ではこれまで診療報酬記録を用いて2008-2010年における肝疾患関連患者数の推計を行ってきた（Hep Res 2015;45:1228-1240.）。

本研究では診療報酬記録を用いた同様の解析方法により、肝炎ウイルス由来の肝疾患関連患者の重複疾患の分布・頻度を病因別に明らかにすることを目的とする。

## B. 研究方法

### 1) 解析対象

全国の健康保険組合のうち、52の健康保険組合に属する本人および家族の3,462,296人が有する2014-2016年における診療報酬記録7,773,235件を解析対象とし（対象年齢：0-74歳）その全レセプトから下記の肝疾患病名レセプトを持つ2,133,215件（251,951人）を抽出した。対象及び肝疾患レセプトを持つ集団の年齢分布を図1,2に示す。また、集計対象となった対象者とレセプト数を表1に示す。

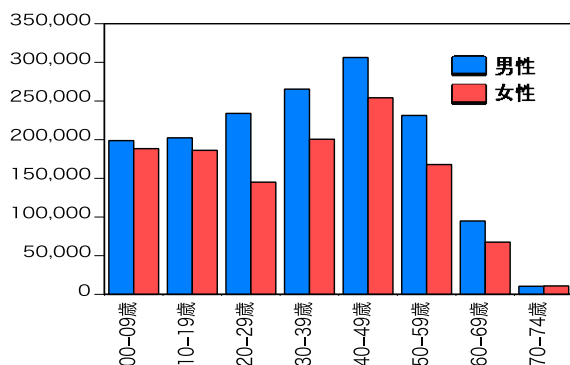


図1 解析対象 3,462,296 人の性・年齢階級別

肝疾患関連病名：

ウイルス肝炎（ICD10: B15-B19）、肝及び肝内胆管の悪性新生物（ICD10: C22）、アルコール性肝炎（ICD10: K70）、中毒性肝疾患（ICD10: K71）、肝不全（ICD10: K72）、慢性肝炎（ICD10: K73）、肝線維症及び肝硬変（ICD10: K74）、その他の炎症性肝疾患（ICD10: K75）、その他の肝疾患（ICD10: K76）、他に分類される疾患における肝障害（ICD10: K77）、ウイルス肝炎のキャリア（ICD10: Z22）

なお、健康保険組合は全国に約1,500あり、その全加入者数は3,000万人である。解析対象年齢の分布を図1に示す。

なお、このレセプトデータは個人を特定する事無く同一患者を識別できる暗号技術が用いられている。また、複数の医療機関や診療科への受診の重複を把握でき、患者ごとの情報を時系列で評価する事ができる。

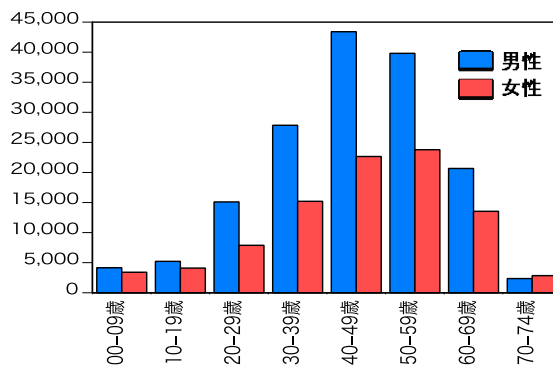


図2 解析対象のうち肝疾患関連レセプトを持つ 251,951 人の性・年齢階級別分布

表1 対象、および肝疾患関連患者の人数とレセプト数

	診療報酬記録数 <医科入院、DPC、医科入院外>	人数（0-74歳）	人数（0-64歳）
対象集団	77,773,235	3,462,296	—
うち、肝疾患病名をもつ肝疾患レセプトと患者数	2,133,215	251,951 (7.2%)	229,654
抽出された251,951人の、全レセプト	6,625,990	251,951	229,654

## 2) 解析方法

解析手順を下記に示す。

- (1) 抽出した 77,773,235 件のレセプトデータから疑い病名を除外した。
- (2) 患者ごとに肝炎に関する 150 の標準病名を抽出し、その標準病名を出現した順番に並べた。そのパターンは 7,340 通りであった。
- (3) 肝炎に関する 150 の標準病名を表 2 に示す 76 パターン分類用病名に変換した。
- (4) 患者ごとに 76 のパターン分類用病名のうち 2 回以上出現したものを抽出し、出現した順番に並べたところ、そのパターンは 2,622 通り (251,952 人) であった。(ただし、DPC レセプト病名、入院レセプト病名、急性疾患病名、観察期間の最終月の病名は 1 回のみ出現であっても除外しない)
- (5) 2622 通りのパターンを 31 の肝疾患病因/病態に分類した。ただし、
  - 病名だけでは判断できなかった 17 パターン(45 人)は診療行為・薬剤の情報を参照して個別に判定した。
  - B 型関連疾患・C 型関連疾患を両方持つ 49 パターン(800 人)は観察期間最後のレセプトにある病名から B 型/C 型/B 型 C 型重複を病因を判定した。
  - パターンに該当する患者が 1 人の 1758 パターン (1,758 人) は分類困難に判定した。
- (6) de novo 肝炎対応としての Fake HBV 患者を除外するため、B 型肝炎関連疾患と判定した患者を、標準病名と薬剤情報からを判定して、分類困難に判定した。

再分類コード化した 31 の肝疾患関連疾病ごとの患者数を、性別年齢 10 歳階級別に再集計し、2014-2016 における 3 年期間有病率 (95%信頼区間) を算出した。

表2 150の標準病名と76のパターン分類用病名の対応

ICD10 細分類コード	標準病名	パターン用簡易名	ICD10 細分類コード	標準病名	パターン用簡易名
B150	急性A型肝炎・肝性昏睡合併あり	A型肝炎	K720	急性肝炎	急性肝炎
B159	A型肝炎	A型肝炎	K720	亜急性肝炎	亜急性肝炎
B162	急性B型肝炎・肝性昏睡合併あり	B型急性肝炎	K720	急性肝不全	急性肝不全
B169	B型肝炎	B型慢性肝炎	K721	慢性肝不全	慢性肝不全
B169	B型劇症肝炎	B型急性肝炎	K729	肝不全	肝不全
B169	B型急性肝炎	B型急性肝炎	K729	肝萎縮	肝硬変
B169	H Bウイルス腎症	B型慢性肝炎	K729	肝性昏睡	肝硬変
B169	B型肝炎ウイルス感染	B型肝炎ウイルス感染	K729	肝性脳症	肝硬変
B171	C型急性肝炎	C型急性肝炎	K729	肝細胞性黄疸	肝細胞性黄疸
B171	H Cウイルス腎症	C型慢性肝炎	K730	慢性持続性肝炎	慢性肝炎
B172	E型肝炎	E型肝炎	K732	活動性慢性肝炎	慢性肝炎
B172	E型劇症肝炎	E型肝炎	K738	慢性非活動性肝炎	慢性肝炎
B178	D型肝炎	D型肝炎	K739	慢性肝炎	慢性肝炎
B181	B型肝炎硬変	B型肝炎硬変	K739	遷延性肝炎	遷延性肝炎
B181	B型慢性肝炎	B型慢性肝炎	K739	慢性肝炎増悪	慢性肝炎
B181	B型代償性肝硬変	B型肝炎硬変	K740	肝線維症	肝硬変
B181	B型非代償性肝硬変	B型肝炎硬変	K741	肝硬変症	肝硬変
B182	C型肝炎	C型慢性肝炎	K743	原発性胆汁性胆管炎	非ウイルス性肝硬変
B182	C型肝硬変	C型肝炎硬変	K743	症候性原発性胆汁性胆管炎	非ウイルス性肝硬変
B182	C型慢性肝炎	C型慢性肝炎	K743	無症候性原発性胆汁性胆管炎	非ウイルス性肝硬変
B182	C型代償性肝硬変	C型肝炎硬変	K744	閉塞性肝硬変	閉塞性肝硬変
B182	C型非代償性肝硬変	C型肝炎硬変	K744	続発性胆汁性肝硬変	非ウイルス性肝硬変
B182	C型肝炎ウイルス感染	C型肝炎ウイルス感染	K745	胆汁性肝硬変	非ウイルス性肝硬変
B189	慢性ウイルス肝炎	慢性ウイルス性肝炎	K746	肝硬変症	肝硬変
B199	劇症肝炎	急性肝炎	K746	代償性肝硬変	肝硬変
B199	輸血後肝炎	輸血後肝炎	K746	栄養性肝硬変	肝硬変
B199	術後急性肝炎	術後急性肝炎	K746	特発性肝硬変	肝硬変
B199	輸血後肝障害	輸血後肝炎	K746	肝炎後肝硬変	肝硬変
B199	ウイルス性肝炎	ウイルス性肝炎	K746	萎縮性肝硬変	肝硬変
B199	急性ウイルス性肝炎	急性ウイルス性肝炎	K746	非代償性肝硬変	肝硬変
B199	ウイルス肝炎感染後関節障害	ウイルス肝炎感染後関節障害	K746	自己免疫性肝硬変	自己免疫性肝硬変
C220	肝癌	肝癌	K746	肝硬変に伴う食道静脈瘤	肝硬変
C220	肝細胞癌	肝癌	K750	肝腫瘍	その他（肝炎ウイルス以外の感染症）
C220	原発性肝癌	肝癌	K750	肝周囲腫瘍	その他（肝炎ウイルス以外の感染症）
C220	肝細胞癌破裂	肝癌	K750	化膿性肝腫瘍	その他（肝炎ウイルス以外の感染症）
C221	肝内胆管癌	胆管癌	K750	多発性肝腫瘍	その他（肝炎ウイルス以外の感染症）
C221	胆管細胞癌	胆管癌	K750	細菌性肝腫瘍	その他（肝炎ウイルス以外の感染症）
C222	肝芽腫	肝腫瘍（肝細胞癌以外）	K750	胆管炎性肝腫瘍	その他（肝炎ウイルス以外の感染症）
C223	肝血管肉腫	肝腫瘍（肝細胞癌以外）	K753	肝肉芽腫	肝腫瘍（肝細胞癌以外）
C224	肝脂肪肉腫	肝腫瘍（肝細胞癌以外）	K754	リポイド肝炎	リポイド肝炎
C224	肝平滑筋肉腫	肝腫瘍（肝細胞癌以外）	K754	自己免疫性肝炎	自己免疫性肝炎
C224	肝胎芽性肉腫	肝腫瘍（肝細胞癌以外）	K754	重症自己免疫性肝炎	自己免疫性肝炎
C227	肝奇形腫	肝腫瘍（肝細胞癌以外）	K758	胆汁うっ滞性肝炎	胆汁うっ滞性肝炎
C227	混合型肝癌	肝癌	K759	肝炎	肝炎
C227	肝のう胞腺癌	非ウイルス性肝癌	K759	乳児肝炎	肝炎
C229	肝門部癌	肝癌	K759	小児肝炎	肝炎
C229	肝悪性腫瘍	肝癌	K759	うっ血性肝炎	肝炎
C229	肝カルチノイド	肝腫瘍（肝細胞癌以外）	K760	脂肪肝	脂肪肝
K700	アルコール性脂肪肝	アルコール性脂肪肝	K760	非アルコール性脂肪性肝炎	非アルコール性脂肪性肝炎
K701	アルコール性肝炎	アルコール性肝炎	K761	うっ血肝	うっ血肝
K701	急性アルコール性肝炎	急性アルコール性肝炎	K761	うっ血性肝硬変	肝硬変
K702	アルコール性肝線維症	アルコール性肝硬変	K763	肝硬変	肝硬変
K703	アルコール性肝硬変	アルコール性肝硬変	K764	多発性肝血管腫	肝良性腫瘍
K703	非代償性アルコール性肝硬変	アルコール性肝硬変	K765	肝静脈閉塞症	肝静脈閉塞症
K703	アルコール性肝硬変に伴う食道静脈瘤	アルコール性肝硬変	K766	門脈拡張症	門脈拡張症
K704	アルコール性肝不全	アルコール性肝不全	K766	門脈圧亢進症	門脈圧亢進症
K704	急性アルコール性肝不全	急性アルコール性肝不全	K766	特発性門脈圧亢進症	特発性門脈圧亢進症
K704	慢性アルコール性肝不全	慢性アルコール性肝不全	K766	門脈圧亢進症性胃症	門脈圧亢進症性胃症
K704	亜急性アルコール性肝不全	亜急性アルコール性肝不全	K766	門脈圧亢進症性腸症	門脈圧亢進症性腸症
K709	アルコール性肝疾患	アルコール性肝炎	K766	門脈圧亢進症性胃腸症	門脈圧亢進症性胃腸症
K709	アルコール性肝障害	アルコール性肝炎	K767	肝腎症候群	肝腎症候群
K709	慢性アルコール性肝障害	慢性アルコール性肝炎	K768	肝出血	肝出血
K710	肝内胆汁うっ滞	肝内胆汁うっ滞	K768	肝浮腫	肝浮腫
K710	肝内閉塞性黄疸	肝内閉塞性黄疸	K768	肝腫瘍	肝腫瘍
K711	薬剤性劇症肝炎	急性薬物性肝炎	K768	肝のう胞	肝良性腫瘍
K711	急性薬物性肝不全	急性薬物性肝炎	K768	ショック肝	ショック肝
K711	慢性薬物性肝不全	慢性薬物性肝炎	K768	肝肺症候群	肝肺症候群
K712	急性薬物性肝炎	急性薬物性肝炎	K768	肝中心静脈閉塞症	肝中心静脈閉塞症
K713	慢性薬物性肝炎	慢性薬物性肝炎	K768	アレルギー性肝腫症	アレルギー性肝腫症
K716	中毒性肝炎	中毒性肝炎	K768	肝限局性結節性過形成	肝良性腫瘍
K716	薬物性肝炎	薬物性肝炎	K769	肝疾患	肝疾患
K719	中毒性肝障害	中毒性肝炎	K769	肝障害	肝疾患*1
K719	薬物性肝障害	薬物性肝炎	K769	肝性胸水	肝硬変
			K769	肝機能障害	肝疾患*2
			K769	肝疾患に伴う貧血	肝疾患に伴う貧血
			Z225	H B Vキャリア	H B Vキャリア
			Z225	H C Vキャリア	H C Vキャリア

## C. 研究結果

### 1. 病因別患者数集計

肝疾患病名をレセプトを含む0-64歳の229,654人の持つレセプトに対して、方法に従い病因を再分類した。229,654人の病因別の内訳を表3に示す。それぞれの患者数は、B型肝炎関連疾患：5,492人、C型肝炎関連疾患：4,668人、B

型C型重複疾患：427人、A型肝炎：70人、E型肝炎：12人、B型急性肝炎：86人、C型急性肝炎：11人、ウイルス肝炎（原因不明）：715人、自己免疫性肝疾患：912人、薬剤性肝疾患：1,966人、アルコール性肝疾患：6,570人、NAFLD：47,949人、その他原因不明肝疾患：155,738人、分類困難：5,038人であった。

表3 肝疾患病名を含むレセプトを持つ251,951人の患者ごと病因別患者数集計

健保組合加入者3,462,298人が有するレセプトから抽出された肝疾患病名を含む229,654人の患者ごと病因別患者数集計(2014-2016)

再分類疾患名	患者数(0-64歳)	有病率	有病率2010年	有病率2008年
B型肝炎関連疾患	5,492	200.8	174.9	164.3
C型肝炎関連疾患	4,668	170.6	186.9	184.2
B型C型重複疾患疑い	427	15.6	Hep Res(2015) 0-64歳の 1年期間有病率 (10万人対)	
A型肝炎	70	0.85		
E型肝炎	12	0.14		
B型急性肝炎	86	1.04	本研究の 0-64歳の 3年期間有病率 (10万人対) *急性肝炎は 1年期間有病率	
C型急性肝炎	11	0.13		
ウイルス性肝炎(原因不明)	715	26.1		
自己免疫性肝疾患	912	33.3	レセプト病名 「肝障害」「肝炎」 では病因不明	
薬剤性肝疾患	1,966	71.7		
アルコール性肝疾患	6,570	240.2		
NAFLD	47,949	1752.7		
その他原因不明肝疾患	155,738	5692.7		
分類困難	5,038	184.2		
全体	229,654			

### 2. 医療機関を受診しているB型肝炎関連疾患患者5,492人の重複疾患分布・頻度

B型肝炎関連疾患患者5,492人の性・年齢階級別人数の内訳を図3に示す。5,492のうち4566人(83.1%)が重複疾患を有していた。また、5,492人の重複疾患分布を重複疾患の割合が多い順、50位までを性別・年齢階級別(0-39歳・40-64歳)に示す。また、重複疾患から対応する診療科を推定し、B型肝炎関連疾患患者が、どの診療科に該当する重複疾患を持つか集計した。これらの結果を図4-13に示す。

0-64歳のB型肝炎関連疾患5,492人(男女0-64歳)の重複疾患の頻度が多い3疾患は胃炎及び十二指腸炎(ICD10:K29,24.3%)、リポたんぱく<蛋白>代謝障害及びその他の脂(質)血症

(ICD10:E78,21.3%)、血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎<鼻アレルギー>(ICD10:J30,21.1%)であった。

40-64歳のB型肝炎関連疾患4,501人(男女40-64歳)の重複疾患の頻度が多い3疾患は胃炎及び十二指腸炎(ICD10:K29,26.0%)、リポたんぱく<蛋白>代謝障害及びその他の脂(質)血症(ICD10:E78,24.4%)、本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)(23.0%)(ICD10:I10)であった。

0-39歳のB型肝炎関連疾患991人(男女0-39歳)の重複疾患の頻度が多い3疾患は多部位及び部位不明の急性上気道感染症(ICD10:J06,22.9%)、血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎<鼻アレルギー>(ICD10:J30,22.8%)、屈折及び調節の障害(ICD10:H52,20.9%)であった。

男性では B 型肝炎関連疾患 3,559 人(男性 0-64 歳)の重複疾患の頻度が多い 3 疾患はリポたんぱく<蛋白>代謝障害及びその他の脂(質)血症(ICD10:E78,23.6%)、胃炎及び十二指腸炎(ICD10:K29,23.4%)、本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)(ICD10:I10,23.2%)であった。

女性では B 型肝炎関連疾患 1,933 人(女性 0-64 歳)の重複疾患の頻度が多い 3 疾患は胃炎及び十二指腸炎(ICD10:K29,25.8%)、屈折及び調節の障害(ICD10:H52,24.6%)、血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎<鼻アレルギー>(ICD10:J30,24.0%)であった。

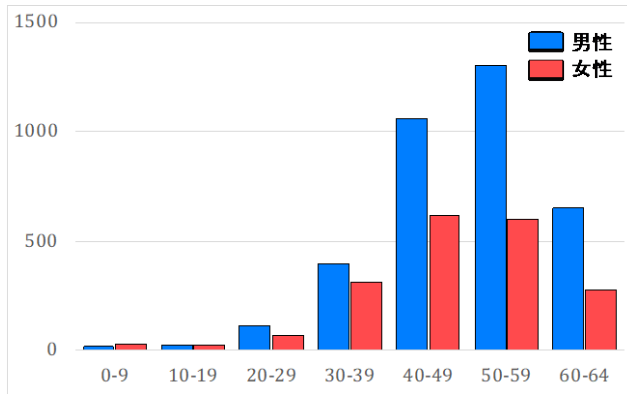


図3 0-64歳のB型肝炎関連疾患患者5,492人の性・年齢階級別人数の内訳

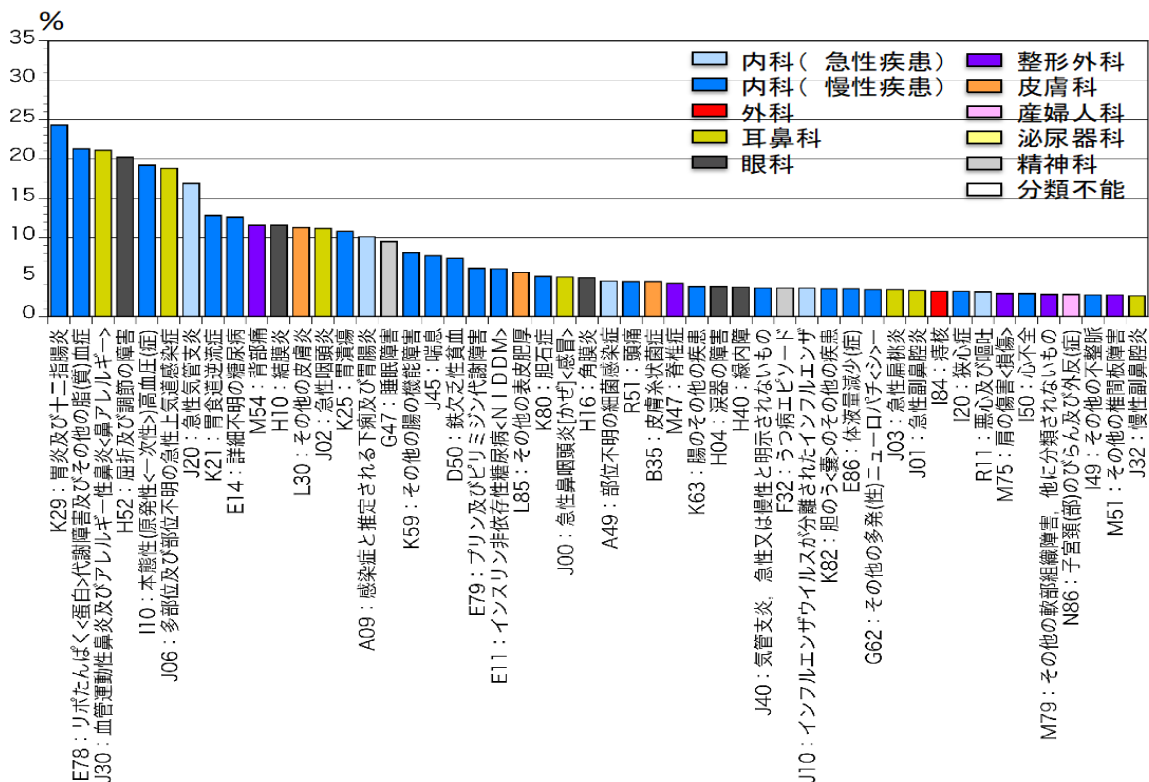


図4 0-64歳のHBV関連疾患患者5,492人の重複疾患分布・頻度(男女0-64歳)(出現頻度上位50位)

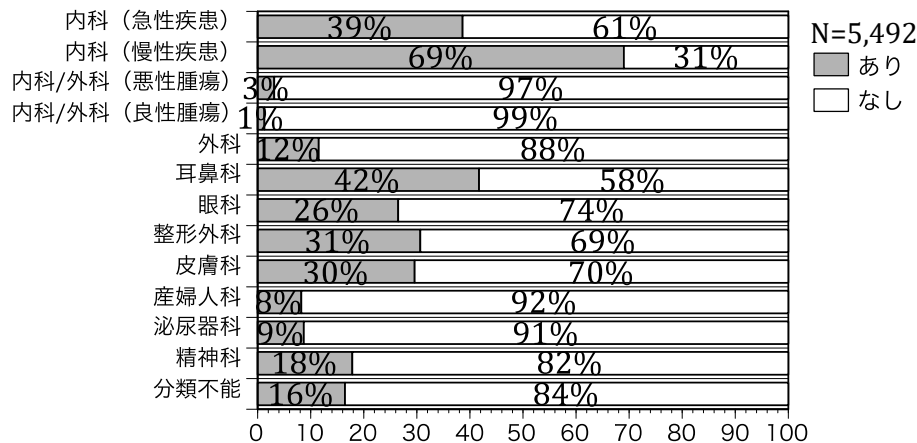


図5 0-64歳の医療機関を受診しているHBV関連疾患を有する患者の重複疾患の該当する診療科別頻度(男女0-64歳)



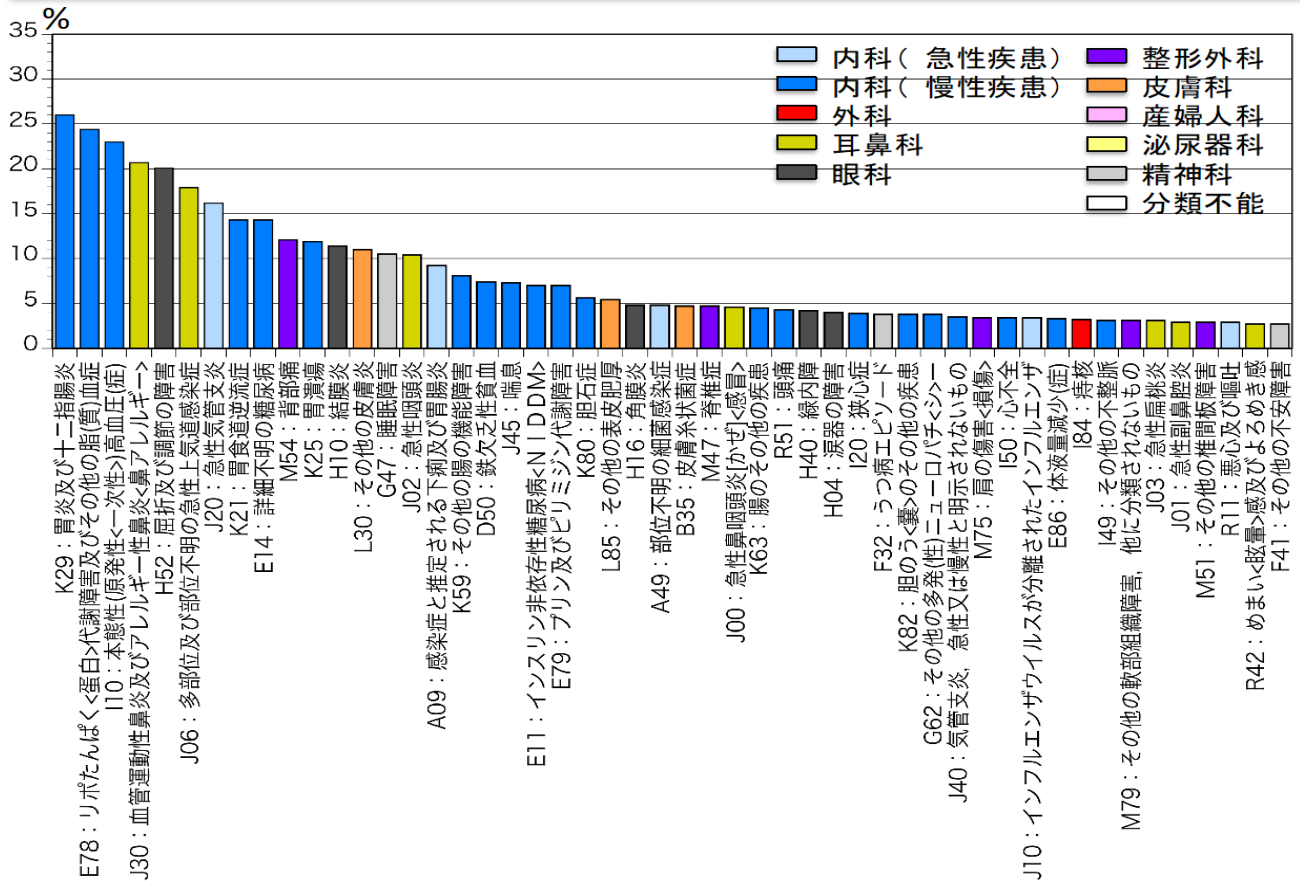


図6 40-64歳のHBV関連疾患患者4,501人の重複疾患分布・頻度(男女40-64歳)

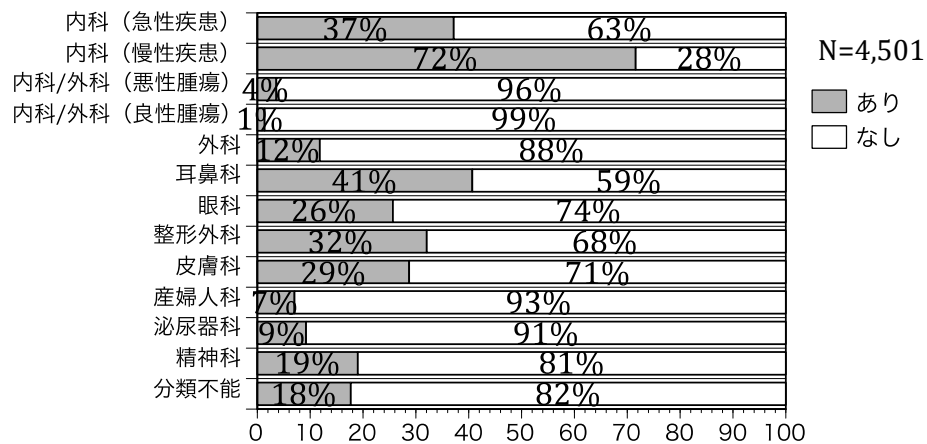


図7 40-64歳の医療機関を受診しているHBV関連疾患を有する患者の重複疾患の該当する診療科別頻度(男女40-64歳)



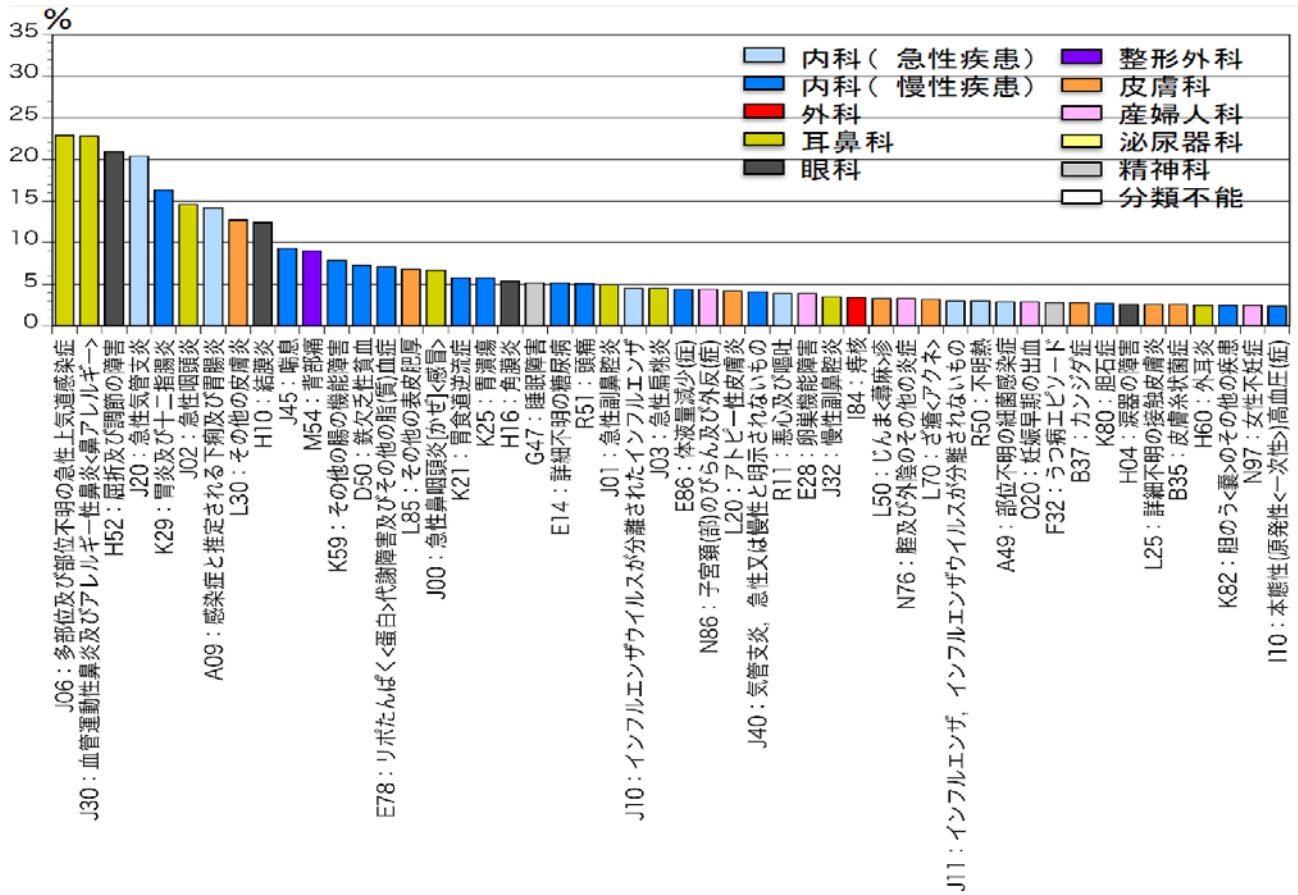


図8 0-39歳のHBV関連疾患患者991人の重複疾患分布・頻度（男女0-39歳）

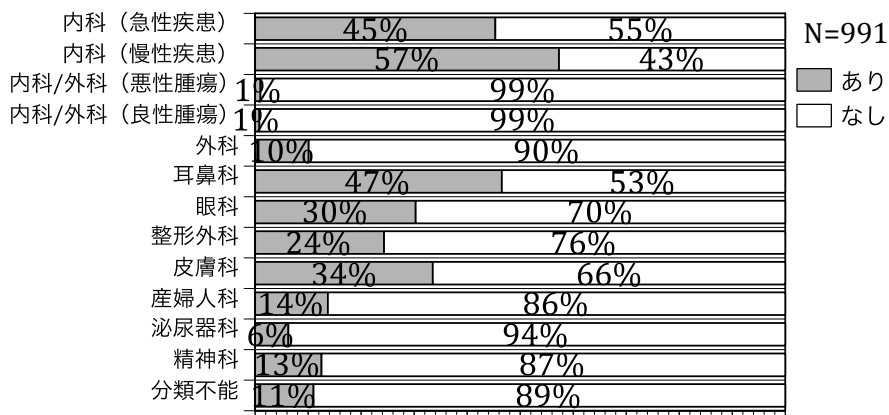


図9 0-39歳の医療機関を受診しているHBV関連疾患を有する患者の重複疾患の該当する診療科別頻度（男女0-39歳）

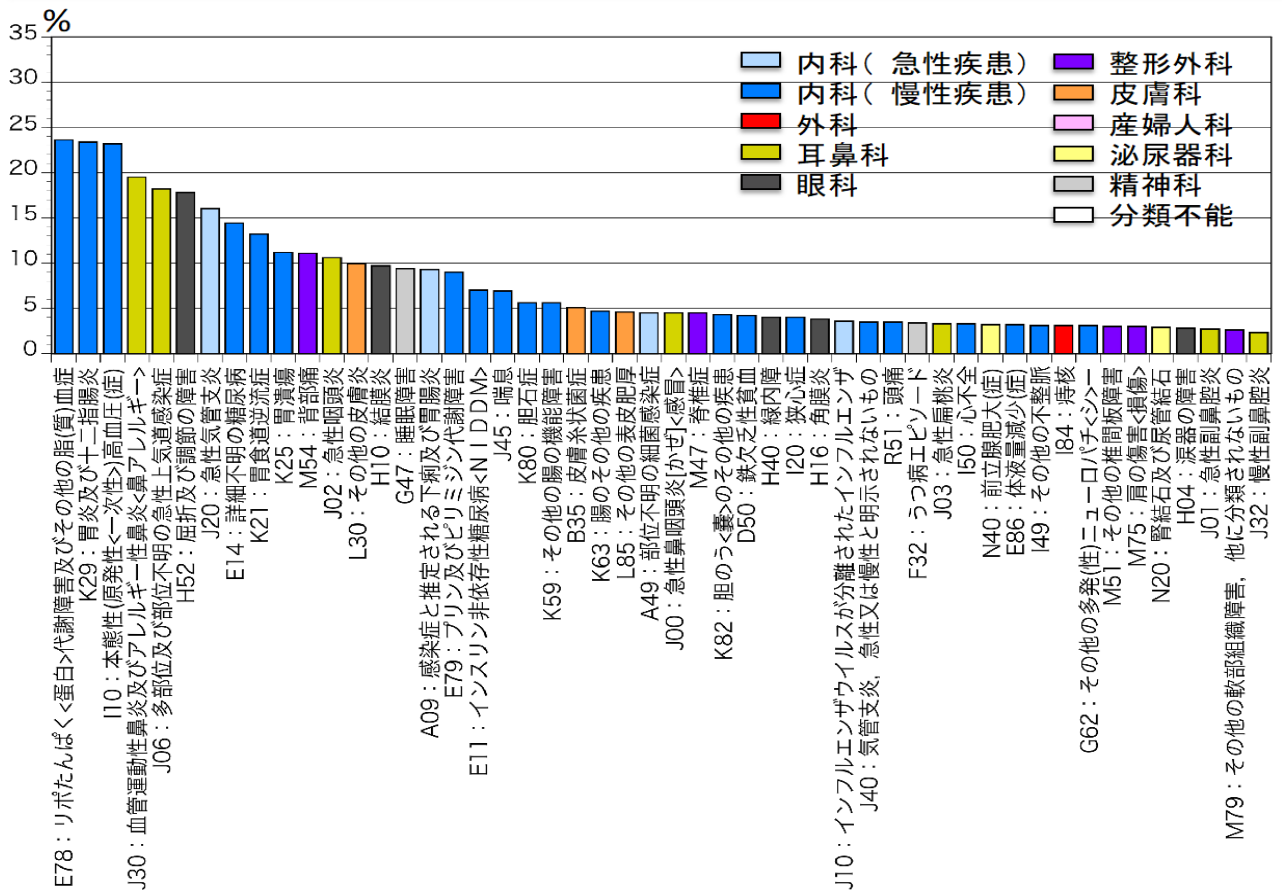


図 10 男性 HBV 関連疾患患者 3,559 人の重複疾患分布・頻度 (男性 0-64 歳)

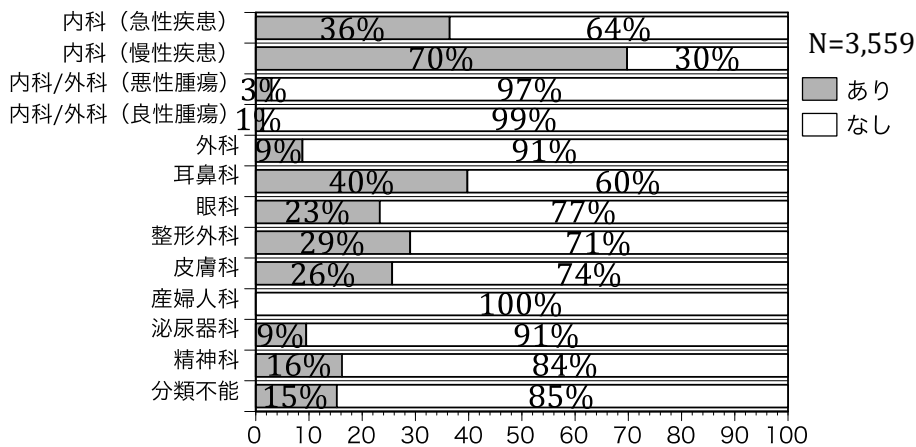


図 11 男性で医療機関を受診している HBV 関連疾患を有する患者の重複疾患の該当する診療科別頻度 (男性 0-64 歳)

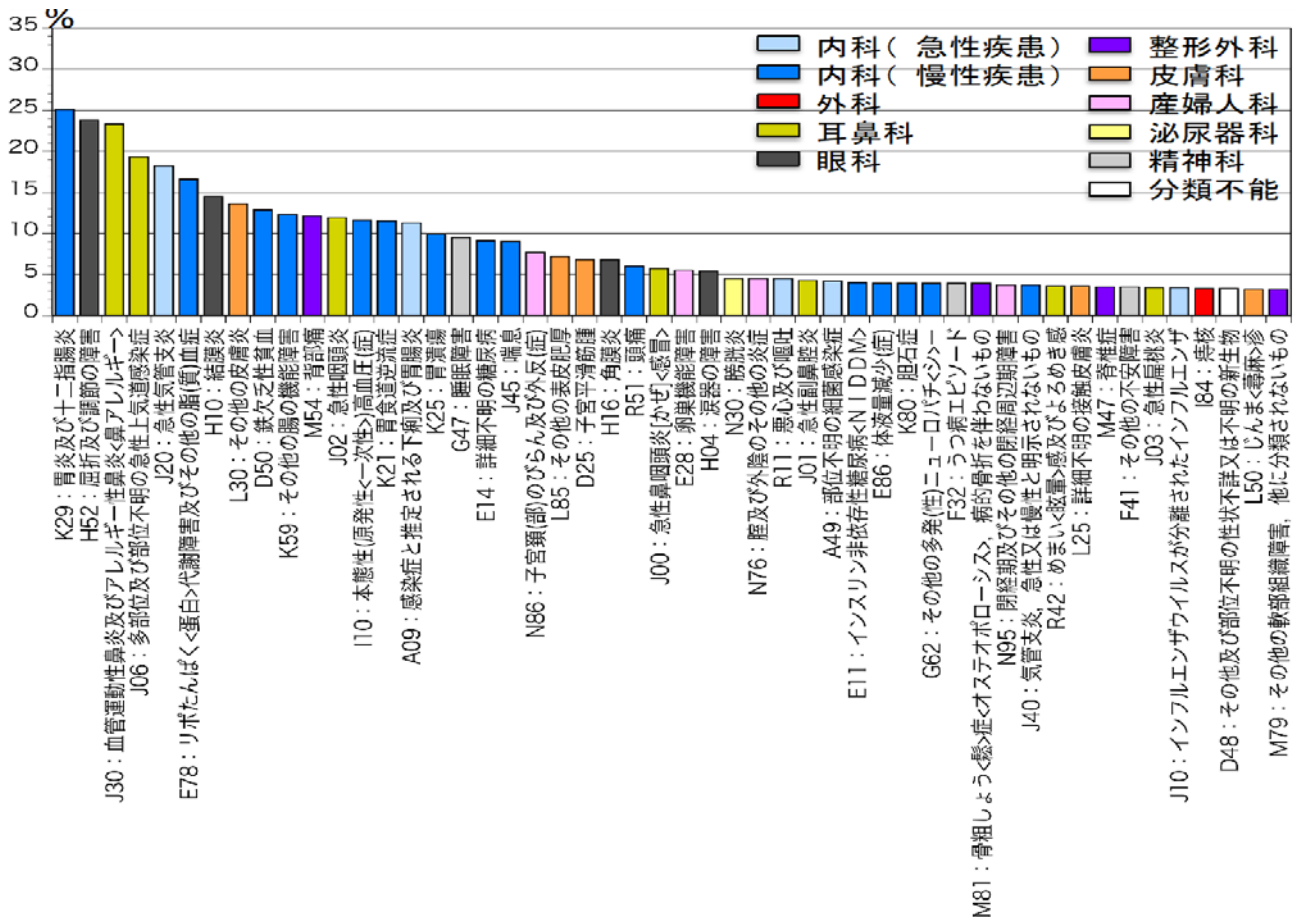


図 12 女性 HBV 関連疾患患者 1,933 人の重複疾患分布・頻度 (女性 0-64 歳)

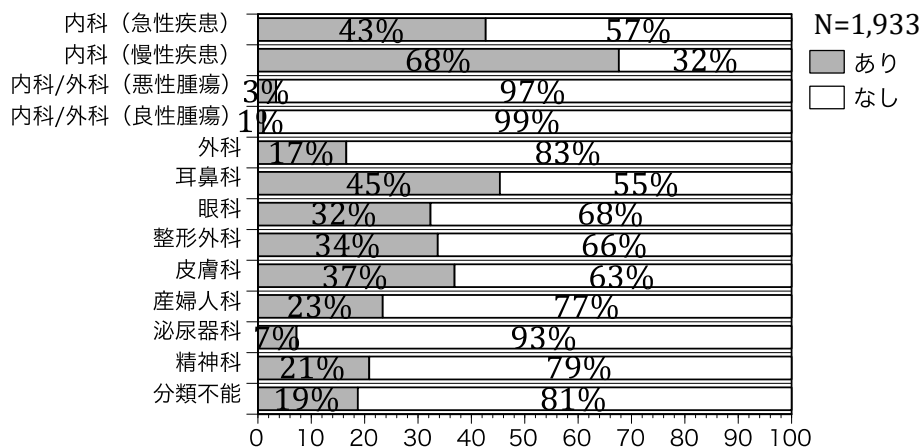


図 13 女性で医療機関を受診している HBV 関連疾患を有する患者の重複疾患の該当する診療科別頻度 (女性 0-64 歳)

### 3. 医療機関を受診しているC型肝炎関連疾患患者 4,668 人の重複疾患分布・頻度

C型肝炎関連疾患患者 4,668 人の性・年齢階級別人数の内訳を図 14 に示す。4,688 人のうち 3,880 人 (83.1%) が重複疾患を有していた。また、4,668 人の重複疾患分布を重複疾患の割合が多い順、50 位までを性別・年齢階級別 (0-39 歳・40-64 歳) に示す。また、重複疾患から対応する診療科を推定し、C型肝炎関連疾患患者が、どの診療科に該当する重複疾患を持つか集計した。これらの結果を図 15-24 に示す。

0-64 歳の C型肝炎関連疾患 4,668 人 (男女 0-64 歳) の重複疾患の頻度が多い 3 疾患は胃炎及び十二指腸炎 (ICD10:K29,30.5%)、血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎<鼻アレルギー> (ICD10:J30,28.1%)、本態性(原発性<一次性>)高血圧(症) (ICD10:I10,27.8%)であった。

40-64 歳の C型肝炎関連疾患 4,013 人 (男女 40-64 歳) の重複疾患の頻度が多い 3 疾患は胃炎及び十二指腸炎 (ICD10:K29,32.0%)、本態性(原発性<一次性>)高血圧(症) (ICD10:I10,31.5%)、血管運

動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎<鼻アレルギー> (ICD10:J30,27.6%)であった。

0-39 歳の C型肝炎関連疾患 655 人 (男女 0-39 歳) の重複疾患の頻度が多い 3 疾患は血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎<鼻アレルギー> (ICD10:J30,31.5%)、多部位及び部位不明の急性上気道感染症 (ICD10:J06,31.4%)、急性気管支炎 (ICD10:J20,26.7%)であった。

男性では C型肝炎関連疾患 2,684 人 (男性 0-64 歳) の重複疾患の頻度が多い 3 疾患は本態性(原発性<一次性>)高血圧(症) (ICD10:I10,32.9%)、胃炎及び十二指腸炎 (ICD10:K29,29.2%)、リポたんぱく<蛋白>代謝障害及びその他の脂(質)血症 (ICD10:E78,24.8%)であった。

女性では C型肝炎関連疾患 1,984 人 (女性 0-64 歳) の重複疾患の頻度が多い 3 疾患は血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎<鼻アレルギー> (ICD10:J30,33.1%)、胃炎及び十二指腸炎 (ICD10:K29,32.2%)、屈折及び調節の障害 (ICD10:H52,28.6%)であった。

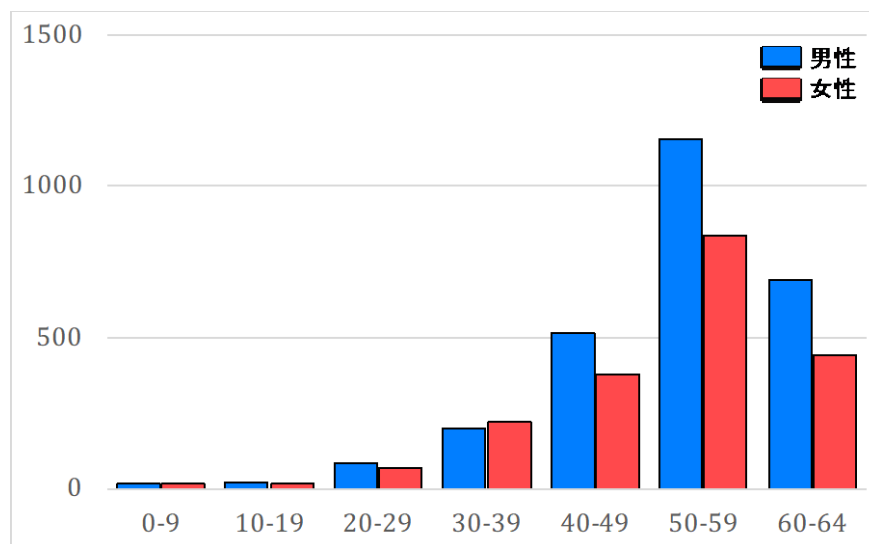


図 14 C型肝炎関連疾患患者 4,668 人の性・年齢階級別人数の内訳

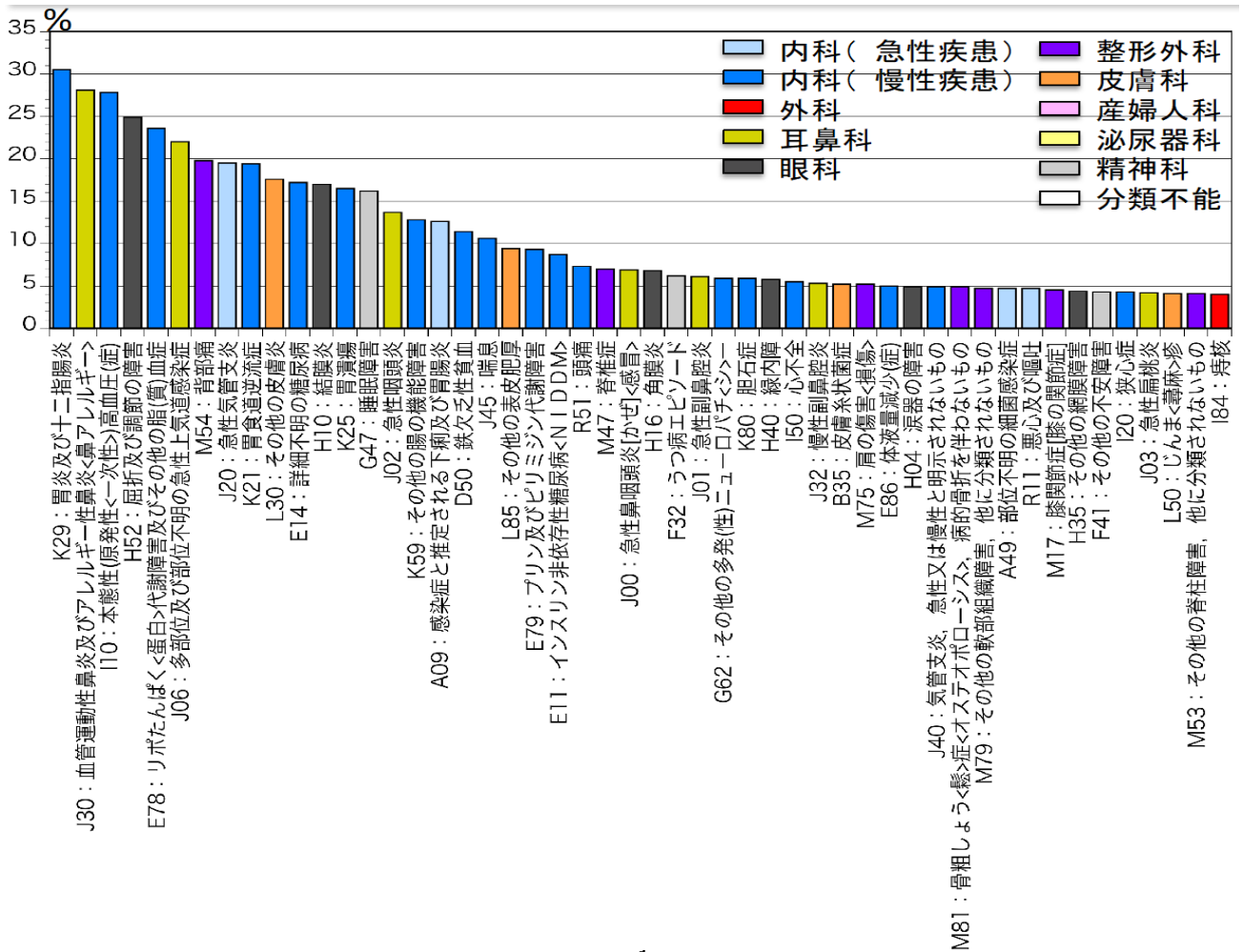


図 15 0-64 歳の HCV 関連疾患患者 4,668 人の重複疾患分布・頻度 (男女 0-64 歳)

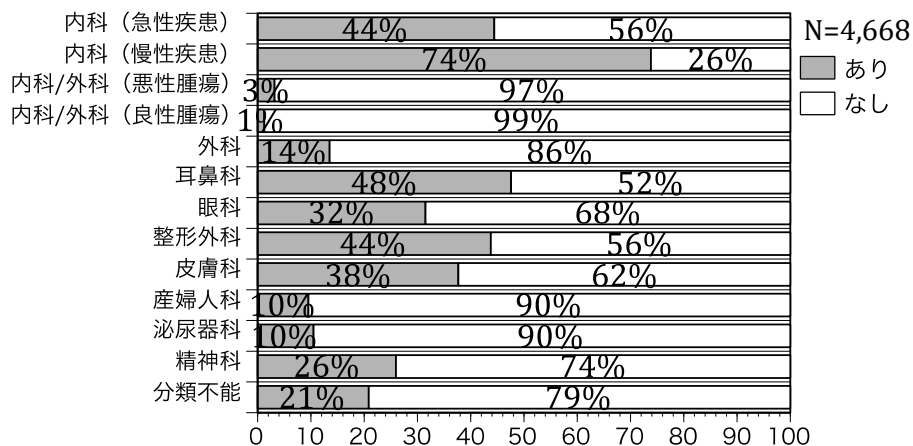


図 16 0-64 歳の医療機関を受診している HCV 関連疾患を有する患者の重複疾患の該当する診療科別頻度 (男女 0-64 歳)

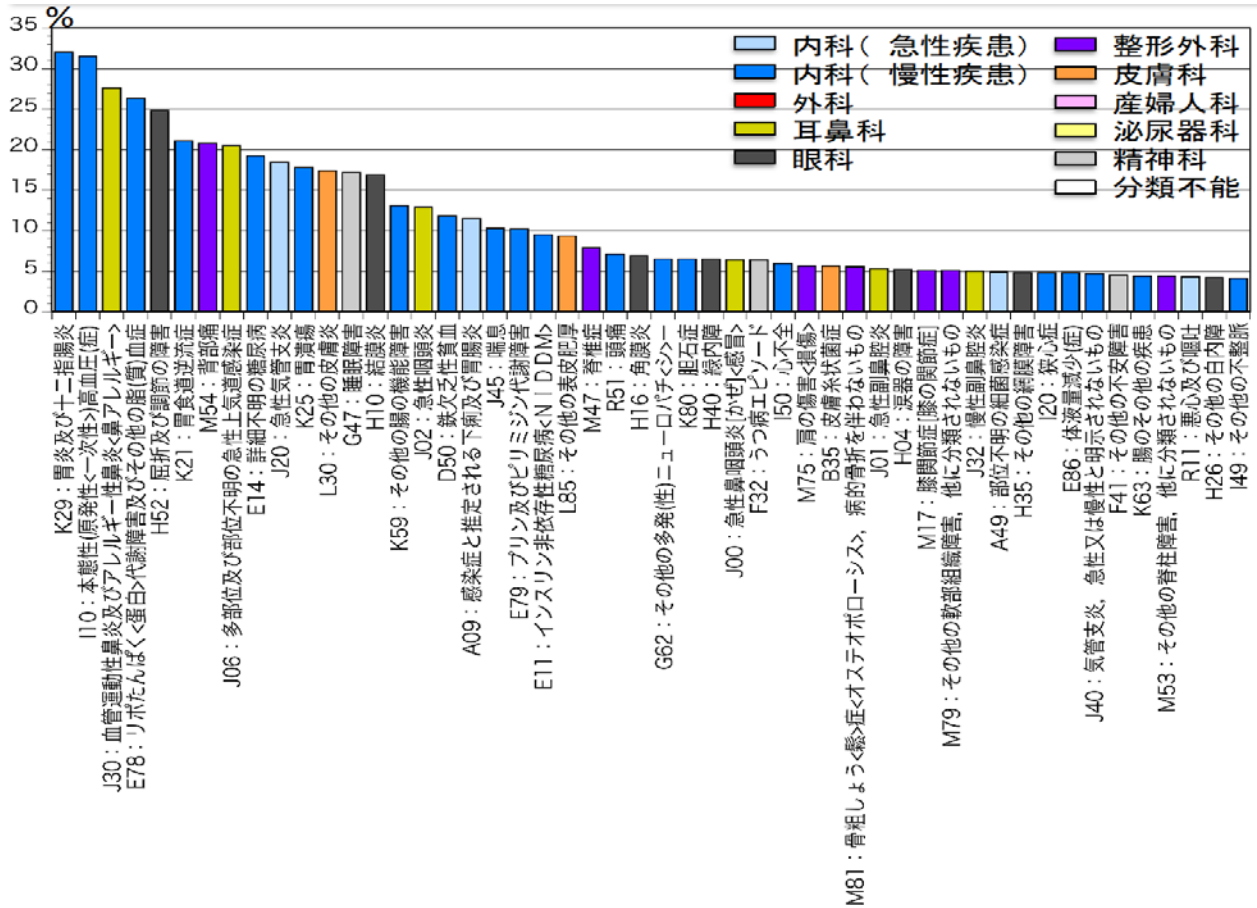


図 17 40-64 歳の HCV 関連疾患患者 4,013 人の重複疾患分布・頻度 (男女 40-64 歳)

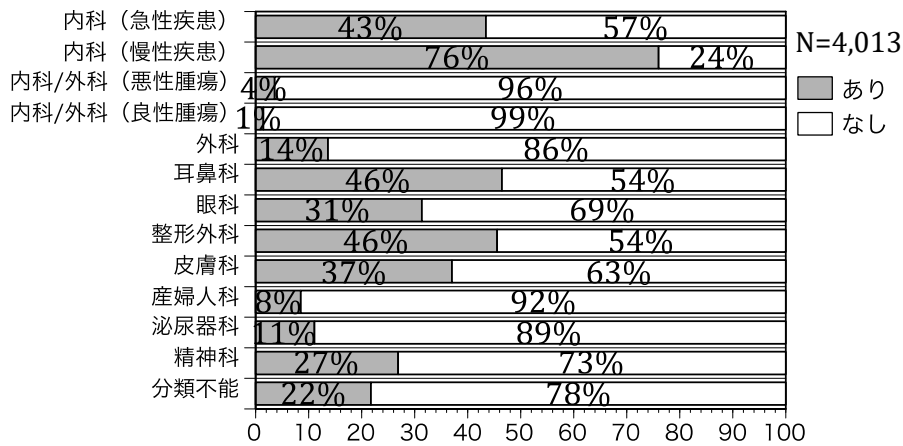


図 18 40-64 歳の医療機関を受診している HCV 関連疾患を有する患者の重複疾患の該当する診療科別頻度 (男女 40-64 歳)



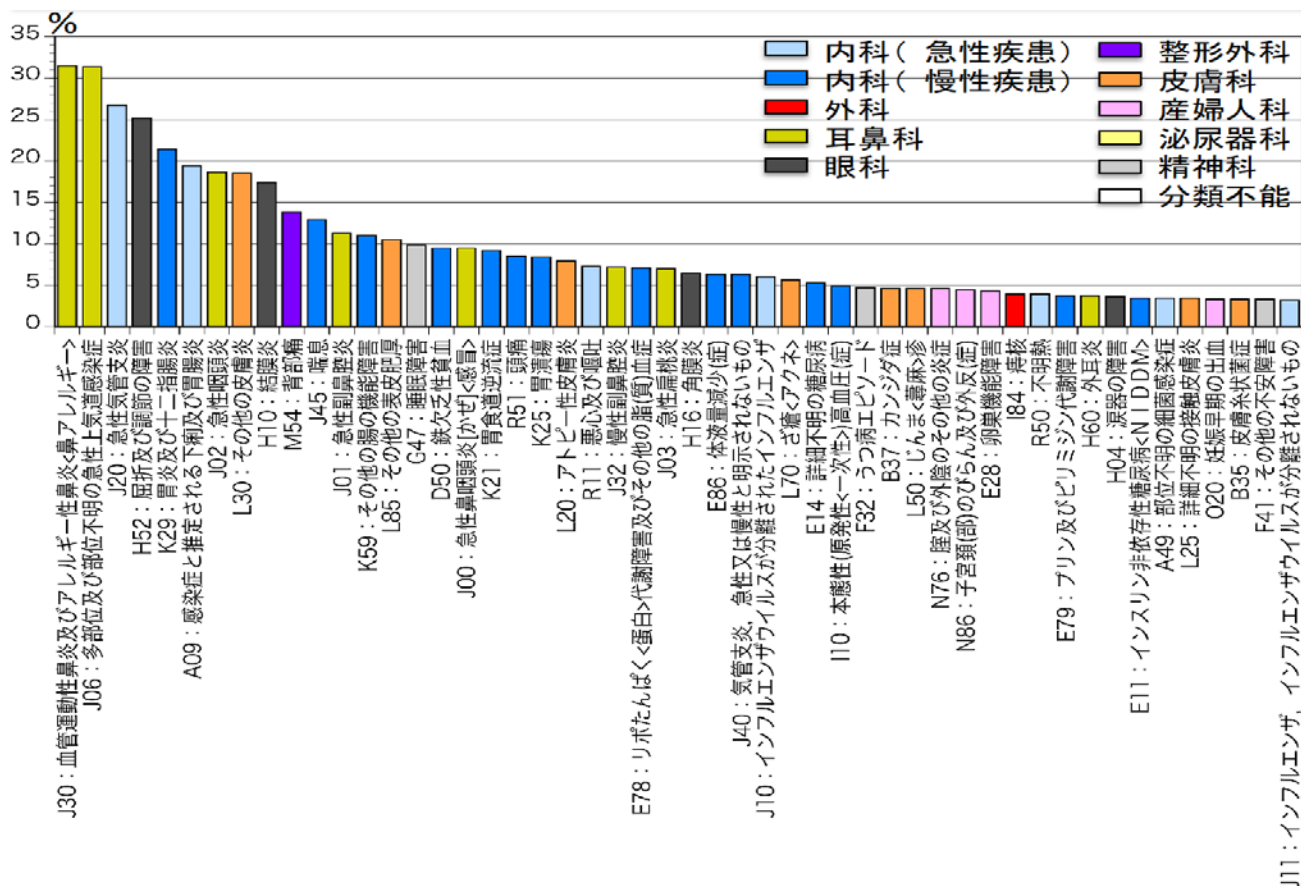


図 19 0-39 歳の HCV 関連疾患患者 655 人の重複疾患分布・頻度 (男女 0-39 歳)

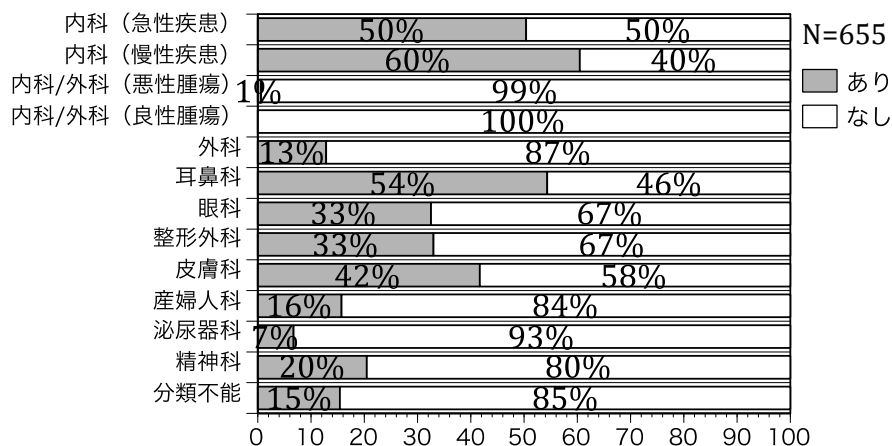


図 20 0-39 歳の医療機関を受診している HCV 関連疾患を有する患者の重複疾患の該当する診療科別頻度 (男女 0-39 歳)



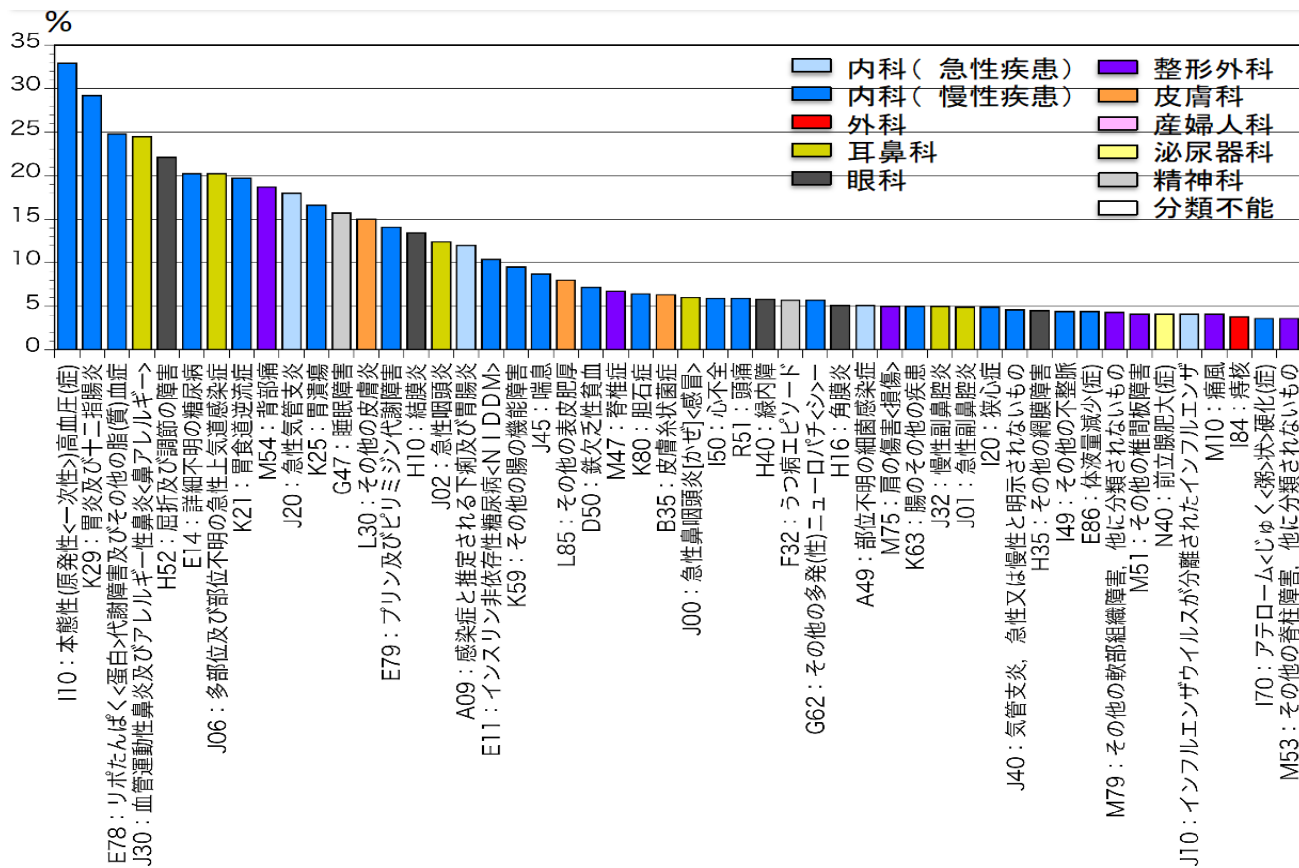


図 21 男性 HCV 関連疾患患者 2,685 人の重複疾患分布・頻度 (男性 0-64 歳)

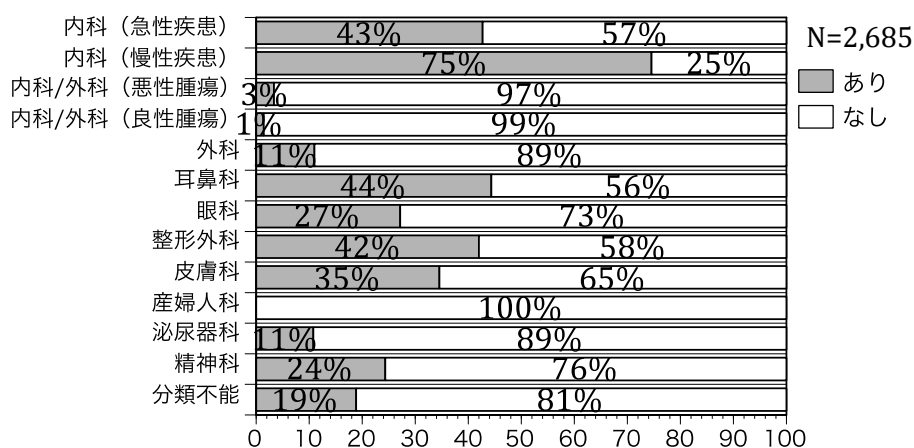


図 22 男性で医療機関を受診している HCV 関連疾患を有する患者の重複疾患の該当する診療科別頻度 (男性 0-64 歳)

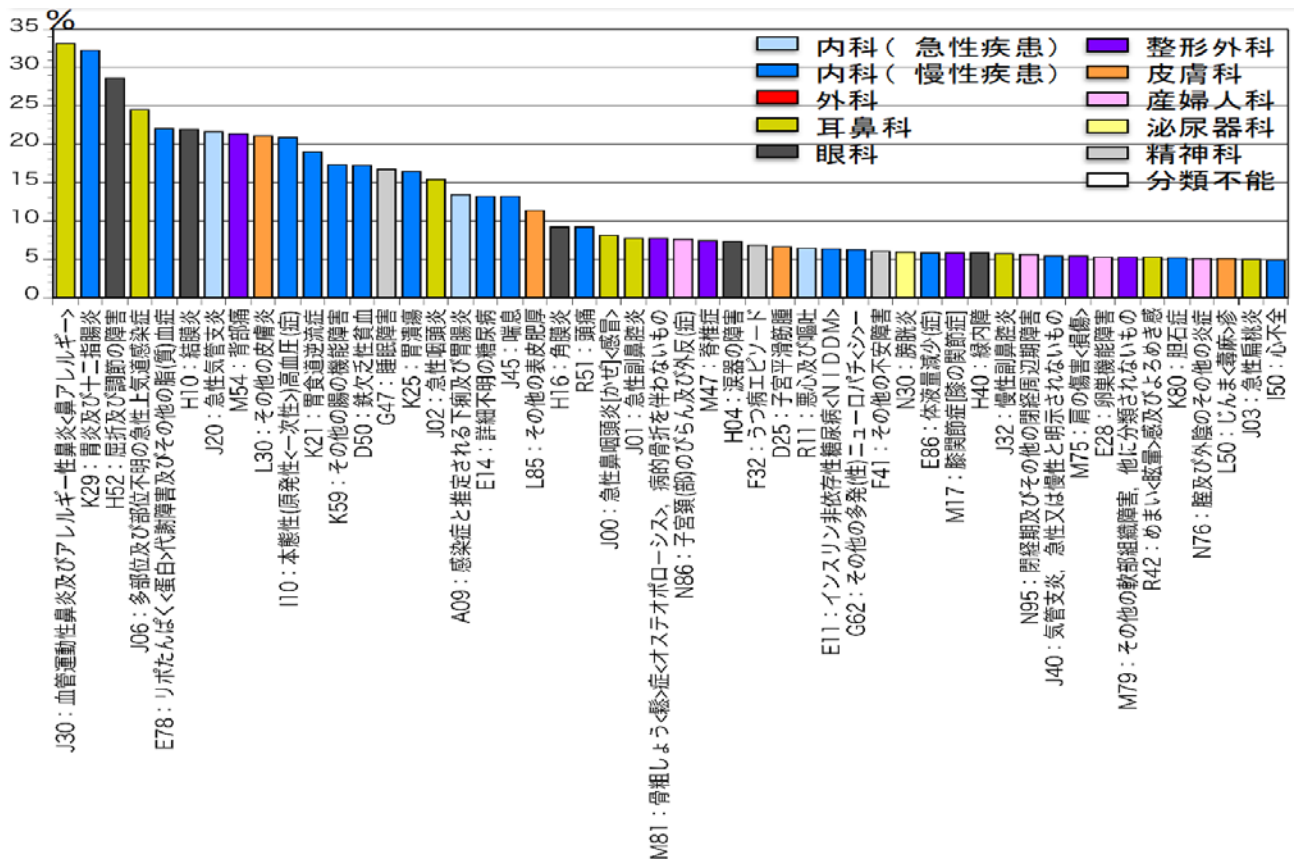


図 23 女性 HCV 関連疾患患者 1,984 人の重複疾患分布・頻度 (女性 0-64 歳)

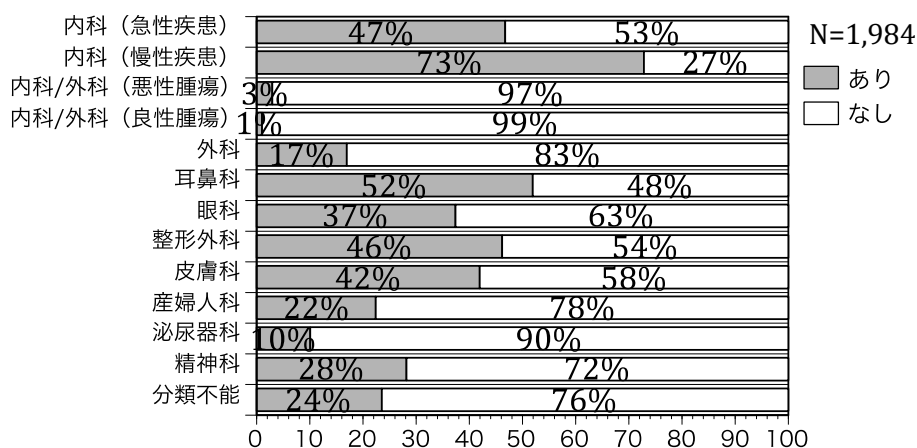


図 24 女性で医療機関を受診している HCV 関連疾患を有する患者の重複疾患の該当する診療科別頻度 (女性 0-64 歳)

## D. まとめ

2014-2016年における健保組合に属する3,462,296人が有する診療報酬記録77,773,235件を解析し、ウイルス性肝疾患関連患者の重複疾患の分布・頻度を集計した。

3,462,296人のうち肝疾患レセプトを有する患者は251,951人（うち0-64歳は229,654人）であった。この229,654人中B型肝炎関連疾患患者は5,492人、C型肝炎関連患者は4,668人であった。

健保組合に属する本人及び家族3,462,296人を分母とした2014-2016年の3年期間有病率は10万人対でB型肝炎関連疾患では200.8、C型肝炎関連疾患では170.6であった。これまでの研究（Hep Res 2015;45:1228-1240.）では健保組合に属する本人及び家族787,075人を分母とした2010年の1年期間有病率は10万人対でB型肝炎関連疾患では174.9、C型肝炎関連疾患では186.9であった。

- 0-64歳のB型肝炎関連疾患5,492人のうち、重複疾患を有していたのは4,566人（83.1%）であった。重複疾患の頻度が多い3疾患は胃炎及び十二指腸炎[K29],24.3%、リポたんぱく代謝障害及びその他の脂(質)血症[E78],21.3%、血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎[J30],21.1%であった。
- 0-64歳のC型肝炎関連疾患4,668人のうち、重複疾患を有していたのは3,880人（83.1%）であった。重複疾患の頻度が多い3疾患は胃炎及び十二指腸炎[K29],30.5%、血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎 [J30], 28.1%、本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)[I10],27.8%であった。
- また、重複疾患から対応する診療科を推定し、医療機関を受診しているB型肝炎関連疾患患者が、どの診療科に該当する重複疾患を持つか集計した結果、0-64歳では内科(慢性疾患)が69%と最も高く、ついで耳鼻科が42%であった。
- C型肝炎関連疾患患者でも0-64歳では内科(慢性疾患)が74%と最も高く、ついで耳鼻科が48%であった。

- 診療報酬記録を解析することによって医療機関を受診している0-64歳のB型肝炎・C型肝炎関連疾患患者がいずれかの重複疾患を有する割合はそれぞれ83.1%であること、また、その重複疾患として多いのは胃炎・十二指腸炎・脂質異常・鼻炎・高血圧等であり、内科(慢性疾患)・耳鼻科・内科(急性疾患)に該当する疾患を多く持っていることを明らかにした。

## E. 健康危険情報

特記すべきことなし

## F. 研究発表

なし

## G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし